

和 白 干 潟 通 信

愛 して、わ じ ろ



No.121

2017年1月17日
発行: 和白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>



「和白干潟の夕景（ダイゼン）」きりえ：くすだひろこ

和白干潟のラムサール条約登録の請願署名を提出します！

新年 おめでとうございます！！

2017年1月

ラムサール署名活動の第2弾は、皆様のご協力で昨年12月まで行いました。お手元に署名が残っていましたが、早めに送っていただきますようお願いいたします。1月より署名を集計して、3月頃福岡市議会議長へ請願に添えて提出する予定です。昨年11月には「日本湿地ネットワーク」の呼びかけで、全国の干潟や湿地の保全団体が一緒に環境省にラムサール条約登録への要望書を渡して要請を行いました。全国の仲間と共に環境省交渉ができて、良かったと思います。

和白干潟を守る会の環境保全活動は今年で29年になります。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり・クリーン作戦・鳥類調査・和白干潟通信やパンフレットの発行・ホームページでの広報など、多くの活動をしています。一昨年には「四季の和白干潟の自然さがし」を行いました。それをもとに昨年はリーフレット「四季の和白干潟の自然」を作りました。会員の皆さまのお手元にもお届けいたします。「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和白干潟の保全6グループが連携して、立花山から和白干潟の集水域保全活動を続けています。ミヤコドリは今冬は過去最高羽数の20羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも19羽を確認しています。ツクシガモは208羽を数えました。

2017年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。今年も和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いいたします。多くの方が和白干潟の環境保全活動に参加して、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくお願いいたします！



第28回 和白干潟まつり開催(11月27日)



2016年11月27日(日)11:00~15:00、「第28回和白干潟まつり」を開催しました。雨模様の中での和白干潟まつりでした。初めて和白干潟と近くの集会所とに分かれての開催になりました。無事に開催できて良かったですね。干潟にはテントを立ててバードウォッチングや観察会の起点にしました。ステージと模擬店は近くの集会所に移して開催できました。両会場で約350名の参加がありました。反省会や後片付けなど、最後まで力を合わせて頑張ることができました。お疲れ様でした。(実行委員長:山本 廣子)



開会式

司会は森 文子さん、開会挨拶は山本実行委員長、生協支部委員長。今年も市長からのメッセージが届き、松田さんが代読。



バードウォッチング

野鳥の会の田村さんの指導で観察開始。30名参加。49種の鳥を見ることができ、歓声があがっていました。



自然あそび

自然観察指導員の田村講師の指導で大人16名、子ども3名が参加。干潟などで生き物を探し、自然の面白さを体験しました。



植物観察

福岡植物友の会の野村講師の指導で16名が参加。雨に濡れているアシ原には入れませんでした。海の広場周辺の植物をゆっくりと観察できました。



干潟の生きもの観察

大人8名、子ども8名の参加。藤井講師のわかりやすい説明で、事前に用意された貝やカニなどを見てから、雨の干潟を少し歩き観察しました。



合唱「九州青年合唱団」

大人9名、子ども3名で「和白の春」「島人(しまんちゅ)ぬ宝」など6曲をすてきな歌声でたからかに合唱しました。



器楽演奏

「モジャッコ」

オカリナとギターの名で「ピリブ」「北の国から」など7曲を演奏。やわらかなオカリナやギターのスてきな演奏でした。



コーラス

「うたごえサロン」

参加者を巻き込んで盛り上がりました。ウクレレの伴奏で9名が「浜千鳥」「ミヤコドリ」などを歌いました。



紙芝居

(和白干潟の秋)

森さんが手遊び「ドレミの歌」を紹介し、山本代表の作画で鳥の声を流しながら紙芝居をしました。子どもに人気でした。

ラムサール条約登録を目指して... 350名参加 (高田 将文)



マジックショー

グループが休みで、山本代表が大潟のマジックを披露しました。



一言アピール

出展・出店者の活動アピールをおこないました。



手をつないで

初めての室内での実施。音楽もよく聞こえ、楽しくできました。



写真展・パネル展

室内の展示は初めてでしたが、大変にぎわいました。



模擬店・バザー

出店者16団体。展示のみ3団体。交流も良くできました。



ラムサール宣言

田浦さんによる力強い「ラムサール宣言」で締めくくりました。

第28回和自干潟まつりラムサール宣言 (抜粋)

1. 私たちは、これからも大切な和自干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けていきます。
2. 福岡市に、条件の整っている和自干潟を中心に「博多湾・和自干潟ラムサール条約登録」を国に申請することを求めます。
3. 福岡県に、「博多湾・和自干潟のラムサール条約登録」を、福岡市、環境省に働きかけることを求めます。
4. 環境省に、「博多湾・和自干潟のラムサール条約登録」に早急に取り組むことを求めます。

2016年11月27日 第28回和自干潟まつり参加者一同

ラムサール宣言は、福岡市長、福岡県知事、環境大臣に送りました。

福岡市長からのメッセージ (要旨)

第28回和自干潟まつりの開催を心からお喜び申し上げます。実行委員会の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、日頃から干潟の清掃活動や自然観察会などに取り組んでいただいておりますことにお礼申し上げます。福岡市は、今年9月に「第二次博多湾環境保全計画」を策定しました。これからも「生き物が生まれ育つ博多湾」の実現に向け、市民のみなさまと一緒に博多湾の環境保全を推進したいと考えており、今日のイベントをきっかけに環境保全の取り組みが広がり、和自干潟の自然が未来に引き継がれていくことを祈念いたします。平成28年11月27日 福岡市長 高島 宗一郎

沿岸の木の実

和白干潟沿岸のアシ原や樹林帯には実の生る木がたくさんあります。今回は秋から冬に実が生る木々を紹介します。海の広場にはナンキンハゼが紅葉し、実がはじけて白い種子がたくさんついています。沿岸にあるセンダンの木に黄色い実がたくさんぶら下がっています。アシ原中道にはクコの木に紫色の花と一緒に真っ赤な実がついています。テリハノイバラやノイバラの赤い実も生っています。シャリンバイは黒っぽい実をたくさんつけています。トベラは黄色い実が生り冬に熟して割れ、中から赤橙色の種子が出てきます。メジロが食べるそうです。他にはアオツツラフジやアキグミ、ネズミモチ、ハマゴウ、マサキなど実が生っている木がたくさんあり、冬の小鳥たちの食料になっています。



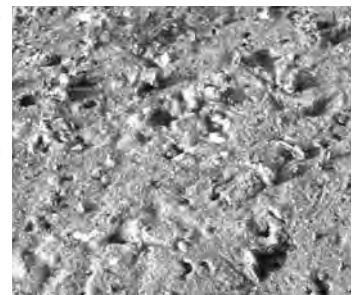
シャリンバイの実

冬の干潟のようす



アオサとオゴノリ

昨秋はアオサの発生が少なめでしたので、干潟の傷みが少なくすんでいるようです。12月の干潟を歩くとカモやシギたちの足跡がたくさんついています。沿岸に打ち上げられたアオサに混じってオゴノリが紫色に変化しています。カモの羽根も落ちています。寒いのでウミミナ



砂にもぐるウミミナ

や潜って膨れた小さな砂山もあります。干潟は眠っているように見えますが、その下にはたくさんのカニや貝やゴカイなどの生き物たちがすんでいるのです。和白干潟は冬鳥たちを優しく迎えて、食べ物とねぐらを提供しています。

ズグロカモメ

カモメ科 全長：32cm 絶滅危惧 類（国）絶滅危惧 類（福岡県）

冬鳥として和白干潟に訪れていますが、羽数は非常に少なく、このところは1～3羽程が見られるくらいです。過去の記録を見ると、多い年には15羽が飛来していました。ところが昨年12/1に和白干潟に54羽が並んで見られました。翌日にはもう見られず1日だけの滞在でした。渡りの途中に立ち寄ったのでしょうか？感動しました。ズグロカモメは泥干潟にいるヤマトオサガニを主に食べるそうですので、砂干潟が主の和白干潟では生息が難しいのでしょうか。



ズグロカモメ

冬の和白干潟のしぜん

- アシ原：**冬のアシ原では木の実がたくさん生っていて、シロハラやツグミが見られます。ウグイスの地鳴きが聞こえてにぎやかです。早春になるとハマダイコンの花が咲き出し、ハママツナなどの新芽も伸びてきます。暖かい日にはアシ原中道にハマガニが出てきます。
- 干 潟：**昨秋はアオサよりもアサミドリシオグサの発生が目立ちました。アサミドリシオグサは低温でも分解せずに残っています。ヒドリガモが緑色のアオサを食べて緑色の糞を干潟に落としています。北西の風が吹きつけ白波が立ち、干潟には波模様が美しく残ります。
- 水 鳥：**11月にはクロツラヘラサギが最大19羽飛来し、12月には冬鳥がそろいました。ミヤコドリは2017年1月現在20羽で過去最高羽数。ツクシガモは208羽で最近の越冬数は減少ぎみです。今冬は久しぶりにコクガンが2羽訪れました。カモやカイツブリ、カモメ、シギ・チドリの仲間など、冬は水鳥が最も多い季節です。



リーフレット「四季の和白干潟の自然 (海の広場周辺)」を発行しました!

2015年4月から和白干潟の四季の自然の変化を調べようと「和白干潟の自然さがし」を開始し、季節ごとに見られる海の広場周辺の「鳥、植物、生き物」をリーフレット(カラーA3版4つ折り)で紹介しています。会員の撮影した写真を使用し、(公財)イオン環境財団の助成を受け11月に発行しました。観察会などで使っていきます。今回会員の皆さまには、1部贈呈します。

環境省にラムサール条約登録求め

JAWANで要望書提出と直接交渉活動をしました

11月11日、東京都千代田区の参議院議員会館で、環境省自然環境局野生生物課と自然環境計画課の担当者3名に、JAWAN(日本湿地ネットワーク)と7つの干潟関係者22名、国会議員と秘書13名の計35名で、ラムサール条約登録に向けて要望書を提出し交渉を行いました。(山本)



「バードウォッチング in 和白干潟2016」(保全のつどい主催)



12月4日、参加者22名、一般参加は11名で、守る会からは5名参加しました。雨でしたが、テントの中で望遠鏡を立てて観察しました。海ガモたちは沖の方で、雨に霞んでいました。海の広場前まで、ハマシギやミユビシギが何度も来てくれました。ミヤコドリが15羽、ハジロコドリも3羽を見ることが出来ました。雨の中でしたが、鳥たちのすばらしい情景を観ることが出来ました。(田辺)

香住丘小学校5年生に講演

11月9日、山本代表が講師として和白干潟に近い香住丘小学校5年生4クラス150名と先生4名に和白干潟の講演をしました。自然のすばらしさや、湿地保全のためにラムサール条約登録を目指していることも話しました。(松田)



九州産業大学経済学部で特別講義

「博多湾・和白干潟の自然を未来へ伝えよう！」



12月10日、山本代表が学生など70名を前に講義しました。子どもの頃から愛した和白干潟の埋め立てに反対し、干潟を守ったこと、和白干潟の保全活動や、ラムサール条約登録を目指した署名運動、11月に環境省に和白干潟のラムサール条約登録の要望書を提出に行ったことなどを話しました。若い人たちに、和白干潟のすばらしさを伝えられて良かったです。(河上)

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます!!

- 10/20 「和白東レインボークラブ連合会」様より寄付金をいただきました。
- 12/9 「MS&ADインシュアランスグループ」様より寄付金をいただきました。
- 12/26 「住友ゴム工業(株)」様より応援金をいただきました。観察会やクリーン作戦に「ダンロップタイヤ九州(株)」の社員やご家族が参加されました。



気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局維持課)

沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾空港局環境対策課)



** お 願 い !! **

干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう!

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367

福岡県環境部自然環境課野生生物係

2016年9月

- 9/3 (土) 和白干潟通信120号編集会議
- 9/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/10 (土) 「山・川・海の流域会議」定例会議参加
- 9/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 9/13 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(千早駅前)
- 9/14 (水) 2016年秋期シギ・チドリ調査2回目
(博多湾東部)
- 9/15 (木) 筑陽学園中学3年生の和白干潟観察会
- 9/17 (土) アオサのお掃除大作戦2回目(保全のつどい)
- 9/19 (月) 2016年秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 9/20 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(JR福工大前駅前)
- 9/24 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 9/25 (日) 和白干潟通信120号編集会議
- 9/29 (木) 2016年秋期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)

2016年10月

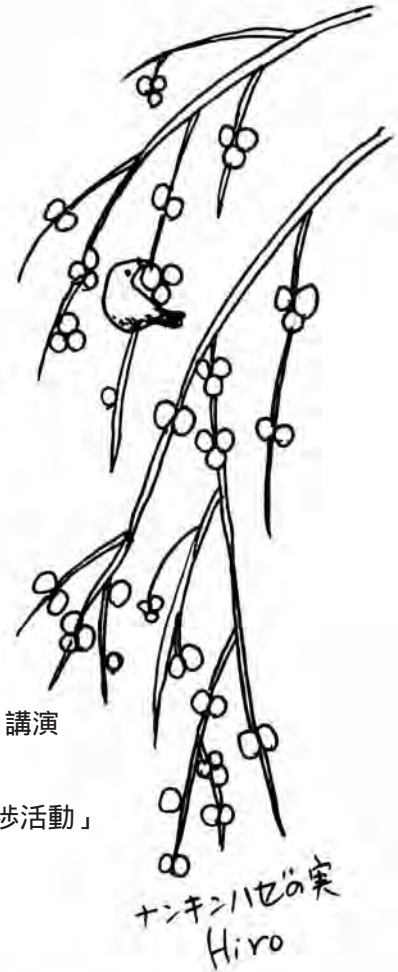
- 10/1 (土) 山・川・海の流域会議主催「唐原川を歩こう」参加
- 10/2 (日) 第19期和白干潟の自然観察ガイド講習会
- 10/9 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 10/10(月) 和白干潟通信120号発送会
- 10/11(火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(西鉄香椎駅周辺)
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 10/13(木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/18(火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(千早駅前)
- 10/22(土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/23(日) 「チームエナセーブ未来プロジェクト・ダンロップ」
グループの和白干潟観察会とクリーン作戦
- 10/25(火) 秋の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)
- 10/26(水) 柏陵高校1年生の和白干潟観察会
- 10/30(日) アオサのお掃除大作戦3回目(保全のつどい)参加

2016年11月

- 11/1 (火) 第28回和白干潟まつり第2回実行委員会
- 11/9 (水) 香住丘小学校5年生に「和白干潟の自然と環境保全活動」講演
- 11/10(木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/11(金) イオン黄色いレシートキャンペーン
「ラムサール条約登録を求める環境省への要望書提出と交渉活動」
- 11/12(土) 「山・川・海の流域会議」定例会議参加
- 11/13(日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 11/15(火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(西鉄香椎駅周辺)
- 11/26(土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 11/27(日) 第28回和白干潟まつり

和白干潟の2016年5大ニュース

- 1 第28回和白干潟まつりが雨でも開催できた!
 - 2 「四季の和白干潟の自然」リーフレットが完成した。
 - 3 ラムサール条約登録のために環境省へ要望書を出して交渉活動をした。
 - 4 和白干潟にミヤコドリが過去最高の19羽飛来した。
 - 5 夏が高温だったため、アオサの発生が少なかった。
- (2016年12月26日の望年会にて)



干潟のつばやき「人工ゴミを再資源化して！」

和白干潟では、毎月末になると多くの人たちが参加して海岸の清掃活動が行われています。空き缶、空きビン、ペットボトルやプラスチック製の包み、シートなどのプラスチックゴミがたくさんあります。このプラスチックゴミは、放置しておくとも波や太陽光などで小さく壊れていき、マイクロプラスチックとなります。マイクロプラスチックは海水中の有害物質を吸着させ、食物連鎖を通し魚や貝・カニ・ゴカイなどの生態系への影響が懸念されています。このプラスチックゴミは、私たちの家庭から出されたものです。福岡県内の北九州市や古賀市ではプラスチックゴミはリサイクルされていますが、福岡市ではペットボトル以外のプラスチックゴミは燃えるゴミとして処理されています。リサイクルすれば捨てられるゴミは減ります。福岡市も、プラスチックゴミを早くリサイクルして欲しいなあ。(山之内)



(和白干潟の人工ゴミ)

和白干潟の観察会報告

(今村 恵美子)

10/2(日) 第19期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 ～ 素晴らしき和白干潟の生きものたち! ～

熊本大学教授逸見泰久氏を講師に21名が参加。室内で先生の「和白干潟の底生動物～素晴らしき和白干潟の生きものたち」のスライドを見て2002年の和白干潟の底生動物リストを参考に教えていただきました。カニや貝を中心に20年間の変化について学び、干潟での観察を行いました。初めての参加者は「福岡市にこういうところがあるのを知らなかった、逸見先生の解説を聞いて有意義だった。」「唐原川を散歩しているがカニの種類を知って楽しみになった。」など感想が出され、3名の方が守る会に入会されました。(今村)



10/23(日) チームエナセーブ ダンロップグループの観察会とクリーン作戦



チームエナセーブ未来プロジェクトは、100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動です。日本ユネスコ協会連盟の仲立ちで和白干潟を守る会がこの運動に参加して3年目です。参加者は50名(子ども7名)で、あいにく初めは小雨でした。バードウォッチング後、干潟のカニたちに会う頃には雨も止みました。元気なアシハラガニに会い、コメツキガニやアサリ掘りにも夢中でした。最後にまとめをし、貝の浄化実験もうまくいきました。その後はクリーン作戦で、アオサやゴミを拾いました。(河上)

10/25(火) 秋の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)

今年度3度目の雁ノ巣海岸の秋の様子を、参加者11名で調査しました。モズの高鳴きを聞きながら海岸に出ると、渡って来た冬鳥たちが沢山いました。ハマゴウは一部が小さな秋を思わせる葉の色づきで、深まっていく秋を思わせる綺麗でした。帰りにゴミを拾い13袋になりました。(田中)



10/28(金) 柏陵高校環境科学コース1年生の 生物探究校外実習

あいにく朝から雨模様。生徒49名と先生5名が海の広場に到着する頃には、少し日も差してきました。山之内さんから和白干潟の紹介や渡り鳥の話、干潟の生き物や食物連鎖の話があり、水鳥と生きものを観察しました。再び雨が降りだし、アオサやゴミの清掃は中止しました。(松田)

12/3(土) 精華女子短大2年生学生39名と 先生1名の観察会

晴れて暖かな観察会日和。きりえ館1階アトリエは学生たちで満杯状態。山本代表が和白干潟で育った話、干潟の話、和白干潟の特徴、野鳥や生き物たちの紹介、和白干潟を守る会の保全活動などの話をしました。その後和白干潟で鳥たちや干潟の自然を観察しました。最後にきりえ館で「ミヤコドリの歌」の楽譜を配り、みんなで合唱し楽しく締めくくりました。(今村)



新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

年会費 個人2,000円、団体5,000円
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

同封の振替用紙をご利用下さい。
郵便局の受領書を領収書に替えさせて
頂きます。
行き違いの際はご容赦下さい。

守る会問い合わせ窓口 ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会/観察会(申込等)・・・山之内芳晴 Tel.090-8412-2663
クリーン作戦・・・田辺スミ子 Tel.090-1346-0460
広報/調査/定例会議・・・山本廣子 Tel/Fax.092-606-0012
干潟まつり・・・今村恵美子 Tel/Fax.092-942-5282



冬の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)

とき：1月24日(火) 受付12:45 開始13:00~16:00 中潮 満潮 8:20 干潮 13:27
集合：JR雁ノ巣駅前(福岡市東区雁ノ巣) 参加費：無料 雨天中止、小雨決行
持ち物：筆記具、飲み物(あれば双眼鏡) 服装：長そで、長ズボン、長靴、防寒具、帽子
主催：和白干潟を守る会 問い合わせ：TEL：090-1346-0460(田辺)

和白干潟を守る会2017年度総会を開催します！

日時：2月25日(土) 10時半~13時 場所：和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などをみんなで意見を出し合い、決定します。(2月臨時定例会議を引続き開催します)

定例スケジュール

定例会議(1/28, 3/25)

毎月第4土曜日10時半~13時 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所...福岡市東区和白1-14-37 きりえ館1階

会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

以下は参加自由です。仲間が待っています！

クリーン作戦と自然観察(1/28, 2/25, 3/25)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

ボランティアへのお誘い

和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか？あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ！

和白海岸探鳥会(2/12, 3/12, 4/9) 主催：日本野鳥の会福岡支部

毎月第2日曜日9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合 参加費：野鳥の会会員 100円、一般 300円

和白干潟の鳥たち(その77)

オオバン (ツル目クイナ科 Common Coot) 大鵞 [全長39cm]



(写真撮影：三宅 僚)

オオバンは冬鳥として和白干潟を訪れていますが、過去の調査では1991年~2009年までには全く観察されないか1~3羽の記録があるのみでした。図鑑では「湖沼や池にすむ」とありますので、以前の和白干潟にはほとんど訪れていなかったようです。それが2010年以降は急に多く来るようになり、265羽が飛来した年もありました。その後も少ない年もありましたが、今年も260羽の渡来を確認しました。2010年頃に何か環境の変化があったのでしょうか？私にはなじみの少ない鳥でしたが、観察しているとアオサを食べていますので、和白干潟にとっては益鳥なのかもしれませんね。体はずんぐりとしていて黒く、口ばしは白く、額は硬くて白いです。足指は長くて特異な水かきがあり、くびを前後に動かして泳ぎます。尾羽が短くてバランスが悪く見えます。河口付近に多くいるようです。(山本 廣子)

【編集】今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子

<カット>くすだひろこ

次号は2017年4月発行予定



【編集後記】冬の和白干潟には沢山の冬鳥たちが渡ってきます。シギやチドリも多く、カモも今冬は多く感じられます。目立つのはツクシガモで大きくて白く、沖ではカンムリカイヅブリで長い首や頭の冠が特徴です。ミヤコドリも増えて来ています。干潟一面に広がった渡り鳥達を観ると、何時も幸せを感じます。(田辺スミ子)

